大阪府立刀根山高等学校
校　長　　無津呂　弘之

# 令和５年度　学校経営計画及び学校評価

## １　めざす学校像

教育目標　「自ら未来を切り拓く　心豊かでたくましい人間を育てる」　～希望進路の実現を支援する学校づくりをめざして～

教育方針　1,学力の充実を図り希望進路を実現させる　2,学校行事・部活動を充実させる　3,基本的な生活習慣を確立させる　4,安心できる学校生活を確立させる

## ２　中期的目標（R5～R7 年度）

### １　生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立

**（１）キャリア教育を充実させ、生きる意味、働く意味、学ぶ意味を考えさせ、具体的な夢を描かせる。**

３年間の進路指導計画を策定し、生徒が主体的に進路実現できるよう指導する。

※学校教育自己診断（生徒）「学校で将来の生き方について考える機会がある」の肯定率を R7 年度も 90%以上を維持する。(R2:90% R3:92% R4:95%)

**（２）将来の夢への入り口となる進学をめざすために、チャレンジする意欲を醸成し、粘り強く取り組む力を養う。**

ア　「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への進学をめざす。

※国公立大学及び関西５私立大学（関学・関大・同志社・立命・近大）への現役進学者数を R7 年度も 60 人以上を維持する。(R2:61 人 R3:63 人 R4:73 人)

イ　総合的な探究の時間にキャリアについての学びの機会を設け、自分の希望進路に関連づける。その際 SDGs についての理解を深め、国際的な視点でのキャリア感覚も身に付けさせる。

### ２　「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上

**（１）自己の進路実現と学力の関連性を意識させ、学習意欲を向上させる。**

ア　志望する大学等へ進学するために必要な学力を意識させ、授業第一主義を確立するとともに、家庭や放課後での自学自習を充実させる。

※学校教育自己診断（生徒）「学校の授業は分かりやすい」の肯定率を R7 年度も 70%以上を維持する。(R2:72% R3:77% R4:72%)

イ　論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力を育成する。

※学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率を R7 年度も 80%以上で維持する。(R2:77% R3:81% R4:85%)

**（２）「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業力向上に取り組む。**

ア　大学入試改革に対応するためだけでなく、社会に出てから求められる力としても重要視し、ICT を活用した効果的・効率的な授業、生徒が積極的にアウトプットする機会を活かす授業の推進を図る。※生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心がある」肯定率を R7 年度も 80%以上を維持する。(R2:79% R3:80% R4:82%)

イ　他校での先進事例の視察や、教育センター等が主催する研修への積極的に参加し、そこでの取組み内容を共有することで全体の授業力を向上させる。

ウ　教員用タブレット PC と１人１台端末の導入により更なる ICT の有効活用について研究し、学びの充実を図る。

**（３）資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。**

ア　全ての教科で新学習指導要領に対応した、観点別評価による「指導と評価の年間計画（シラバス）」を作成し、評価の方法を確立する。特に「主体的な学び」についての評価方法は引き続き検討を重ねる。

### ３　心豊かでたくましい人間性の育成

**（１）他者理解と多様性を尊重し、鋭い人権感覚を育成する。**

ア　授業、ＨＲ活動などあらゆる教育活動を通して多様な人権課題を提示し主体的に学べる機会を設けることで、適切な人権感覚を養う。

※学校教育自己診断（生徒）「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定率を R7 年度には 80%以上に引き上げて維持する。(R2:76% R3:76% R4:78%)

イ　学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図ることで、他者理解の姿勢を育む。

※学校教育自己診断（生徒）「文化祭や体育大会は、活発で楽しい」の肯定率を R7 年度も 80%以上を維持する。(R2:83% R3:70% R4:83%)

ウ　海外研修と海外からの留学生の招聘を実施し、国際交流を通じて多様な文化を体験し国際的な視野を育成する。

**（２）情報リテラシー及び情報モラルを育成する。**

ア　情報の授業において、専門家による講演で生徒が加害者にも被害者にもならない対策をとる。

イ　１人１台端末の導入を受け、情報社会で通用する人材を育成するため、ＩＣＴ有効利用など教職員の情報に関する指導力を向上する。

**（３）安心できる学校生活を確保し、基本的生活習慣の定着・改善を図るとともに、規範意識を向上させる。**

ア　教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、生徒が相談しやすい指導体制を充実させることで、安全・安心な場を確保する。

※学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」の肯定率を R7 年度には 75%に引き上げて維持する。(R2:73% R3:73% R4:74%)

イ　これまでの取組みを進めることで、基本的生活習慣（挨拶、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動、授業態度等）の改善・定着を図る。

※年間遅刻数を R7 年度は 2000 回以下にする。(R2:1783 回 R3:2285 回 R4:2475 回)

### ４　地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり

**（１）本校の教育活動について積極的に情報発信し、地域に活動の理解を広げるとともに、魅力ある学校にする。**

ア　学校説明会の実施方法の工夫の一つとして在校生による中学校訪問を定着させ、生徒自身の成長を積極的に発信する。

イ　HP の内容充実を図り、本校の魅力を発信することで、地域に活動の理解を広げる。

※学校教育自己診断（保護者）「学校の HP は充実している」の肯定率を R7 年度には 65%に引き上げて維持する。(R2:67% R3:63% R4:62%)

ウ　保護者へのメール配信を定期的に実施し、連携を深める。

**（２）地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。**

ア　授業や部活動、生徒会活動などを通して、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。

イ　裏山を活用した環境教育を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

### ５　働き方改革による校務の効率化と教職員の健康増進

**（１）部活動指導・諸会議など多くの場面で校務の効率化を図り、勤務時間の短縮を図るとともに教職員間のよりよい人間関係を構築する。**

※学校教育自己診断（教員）「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係ができている」の肯定率を R7 年度も 80%以上を維持する（R2:74% R3:83% R4:80%）

**（２）各分掌、学年での年間業務を整理し、校務の効率化を図ることで生徒と向き合う時間を確保する。**

※学校教育自己診断（生徒）「先生は熱心に授業や部活動その他の仕事にあたっている」の肯定率を R7 年度以降も 80%以上を維持する。(R2:80% R3:83% R4:82%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析[令和５年 11 月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|---|---|
| 【学習指導等】<br>・「学校の授業はわかりやすい」<br>（生徒）の肯定率は、令和４年度が 72%と、令和３年度の 77%から減少しており、改めて各教員の授業内容の検討や職員研修・授業研究期間などを設定し、授業改善に取り組んだ結果、令和５年度は、78%に改善した。今後も、生徒の学力層・ニーズの変化にも対応しながら、わかりやすい授業を展開していきたい。<br>・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」<br>（生徒）の肯定率は、令和３年度 81%、４年度 85%、５年度 88%と着実に上昇しており、様々な授業で発表する機会が充実してきたことがわかる。特にトネ究（総合的な探究の時間）で３年間の継続したカリキュラムで実施している個別探究の影響は大きいと考えられる。<br>・「学習の評価は、テストの点数だけでなく生徒の努力や取り組みの変化等を含めてされている。」<br>（生徒）の肯定率は、令和４年度 84%であったが、５年度 88%と上昇した。２年生までが新教育課程に対応したカリキュラムに切り替わり、学びに対する姿勢などが評価に加わるようになった影響であると考えられる。<br><br>【進路指導等】<br>・「ホームルームなどで進路についての情報が提供されている」<br>（生徒）の肯定率は、令和４年度の 96%、５年度は 95%である。１年次から計画的に実施されている進路指導と学習支援クラウドサービスを活用した最新の大学等の進学情報の配信が効果であると考えられる。<br>・「学校は、長期休暇中の講習や進路指導等を実施している」<br>（生徒）の肯定率は、令和３・４年度 95%、５年度は 96%であり、生徒のニーズに応じた講習が実施できていると考えられる。<br><br>【生徒指導等】<br>・「学校の生活指導の方針について納得できる」<br>（生徒）の肯定率は、令和４年度の 68%に対して、５年度は 72%と上昇した。引き続き、生徒に対して、高校生として「当たり前のことを当たり前に」行い、全員が安心して学校生活をおくれるように指導していきたい。<br>・「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」<br>（生徒）の肯定率は、令和３・４年度 74%、５年度は 75%である。教員の生徒に寄り添う指導は実施できていると考えられる。今後も、生徒の小さな変化を見逃さない態勢を維持していきたい。<br><br>【特別活動等】<br>・「部活動に積極的に取り組んでいる」<br>（生徒）の肯定率は、令和４年度 77%から５年度 78%。<br>「部活動を通じて成長している」<br>（生徒）の肯定率は、令和４年度 86%から５年度は 89%と上昇している。<br>部活加入率が 80%を超える本校で、生徒たちが真剣に部活動に取り組んでいることがわかる。また、今年度も複数の運動部が近畿大会に、複数の文化部が全国大会に出場しておりその影響もあると考えられる。<br>・「文化祭や体育大会は活発で楽しい」<br>（生徒）の肯定率は、令和４年度 83%が５年度 90%と上昇した。今年度は、文化祭の服装を「公衆道徳に反しない限り自由」というルールで実施し、生徒たちの自主性に任せたので、このような結果となったと考えている。今後も生徒たちが自主的に取り組む学校行事を実施していきたい。<br><br>【学校運営等】<br>・「学校に行くのが楽しい」<br>（生徒）の肯定率は、令和４年度の 83%から５年度は 85%に上昇した。特に「A：良くあてはまる」と 47%の生徒が回答しており、学校行事等の活性化の影響が強くでていると思われる。<br>・「学校は、学習と行事・部活動の両立を図るように指導している」<br>（生徒）の肯定率は、令和４年度の 81%から５年度は 87%に上昇した。本校の「行事も！部活も！勉強も！」の指導に多くの生徒たちが賛同して、頑張っていることが示されている。<br>・「学校での授業や部活動を通じ、近隣の学校や地域との交流機会がある」<br>（生徒）の肯定率は、令和４年度 48%、５年度 49%である。新型コロナウイルス感染症対応による制限もなくなったので、地域貢献や他校種との交流を一層、積極的にすすめていきたい。 | 【第１回　５月 22 日】<br>・高校は中学校までと違い自分で考えて行動することが大切であるということをより一層生徒たちに指導してほしい。また、そのことにより、生徒たち自身が学校行事を運営できるような体制を作っていってほしい。<br>・遅刻数が増加傾向にあるので、個々の生徒の状況に対応した遅刻指導を丁寧に行ってほしい。<br>・自転車での登校について、特に学校東側の刀根山公園付近の坂道を減速せずに通過する生徒が多い。改めて、交通マナーの指導を徹底して欲しい。これは、事故防止につながるので、特にお願いしたい。<br>・教員の働き方改革では、部活動の負担が大きいと聞いている。各先生方に過度な負担にならないように、部活動を運営していただきたい。<br>・生物エコ部の活動は、裏山を良く活用しておられ、地域（公民館・小学校等）にとってなくてはならないものである。今後ともよろしくお願いいたしたい。<br>・生徒たちのため、学校のこれまでの取組みをしっかりと継続していってほしい。<br><br>【第２回 11 月６日】<br>・学習支援クラウドサービスの活用を進められているのとのことだが、豊中市の中学校も１人１台端末が普及したので、各種アンケートなどはフォーム等を活用して実施している。今後は生徒たちも慣れてくるので、高校でもより一層の活用をお願いしたい。<br>・トネ究での発表は大学でも役立つ技能なので、高校で指導していただけるのはありがたい。<br>・フォーム作成ツールによるアンケートで回答率が下がっているのは、残念なことである。対策を検討してできる限り回答率を上げて欲しい。<br>・学校教育自己診断の結果が多くの項目で好転しており、学校に対する生徒の肯定感が上昇しているのは、喜ばしいことである。しかし、ごくわずかだが、学校が楽しくないと考えている生徒がいることも確かなので、このような生徒ができるだけいなくなるように丁寧な指導をお願いする。<br>・１年生のうちから熱心な進路指導をすすめられているので、この方針を維持して欲しいと思う。<br><br>【第３回　２月 19 日開催予定】<br>・デジタル採点システムの導入が始まり、一部の教科で実施されているとのことだが、中学校でもすでに導入されており、生徒たちは慣れてきているので、ぜひ、高校でも活用をされるとよい。<br>・遅刻数が多くなってきており、指導を熱心に行っていること、また、体調面などの事情を抱える生徒が増加傾向にあるとのこと。生徒の状況に応じて指導方法を変え、丁寧な指導を行っていることは大変良いと思う。<br>・遅刻について、社会に出てから非常に厳しく指摘されることを生徒たちに意識させる指導をしていただきたい。時間を守る大切さを繰り返し指導していただきたい。<br>・中学校では、体調面などで午前中の登校が困難な生徒が増えている。そのため、進学先も登校時間が自由に設定できる通信制高校を選択する生徒が一定数いる状態である。また、私立高校は公立高校より早く合格か決まるため、中学生の早く進路を決めたいという思いに合致し、年々、人気が高まってきている。<br>・学校が楽しい生徒が多くいることは良いが、学校が楽しくないと考えている生徒も一定数いることも確かなので、このような生徒ができるだけ少なくなるよう丁寧な指導をお願いする。<br>・公民館の活動において、生物エコ部の生徒に大いに協力していただいている。また、校内の里山を活用した活動でも、地域の参加者から大変な好評をいただいている。令和６年度も地域と連携した活動の継続をお願いしたい。<br>・教員の働き方改革の一例として、中学では朝の登校確認は副担任が中心になって担っており、家庭への電話連絡も行っている。高校でも参考にしてほしい。<br>・高校も希望する学校に合格する生徒を増やすことが大切だと考える。１年生から積極的な進路指導を実施していただきたい。「進路の手引」には卒業生の受験体験記もあるとのこと、より一層の活用をお願いする。<br>・広報の活性化の指標に HP の閲覧数を用いるのは面白いと思う。 |

## ３　本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標［R４年度値］ | 自己評価 |
|---|---|---|---|---|
| １　生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立 | （１）キャリア教育の充実とその具体化<br>・３年間の進路指導計画の更新<br>・主体的に進路を切り拓く指導の充実 | （１）<br>・各種進路ガイダンスを展開し学年、学校全体で課題を共有し、今後の進路指導に生かす。<br>・共通テストなど大学入試に関する最新の情報を整理し、生徒の主体的な進路決定をサポートする。 | （１）<br>・学校教育自己診断（生徒）「学校で将来の生き方について考える機会がある」肯定率 90%［ 95% ］<br>・学校教育自己診断（生徒）「HR などで進路についての情報を提供されている」肯定率 90%［ 96% ］ | （１）<br>・肯定率は 96%。進路ガイダンスなどが順調に進行できたこともあり、目標を達成することができた。（○）<br>・肯定率は 95%。進路 HR・講演会に加えて、学習支援クラウドサービスに随時進路情報を発信することも定着できた。（○） |
| | （２）チャレンジする力と粘り強さの育成<br>ア　行きたい大学へ進学するためのガイダンス実施<br>イ「総合的な探究の時間」との連動<br>ウ　資格試験受験の奨励 | （２）<br>ア・入学当初に高校生活や学習法について丁寧に説明する。また基本的な生活習慣の確立をサポートし、読書を含む適切な学習習慣を早期に確立させる。<br>・1 年時から系統的な進路指導を進め、生徒・保護者向け進路講演会、ガイダンス等を着実に実施する。<br>イ・探究の授業でも自分の進路を考える機会を作り、夢や志を具体化させる。<br>ウ・1.2 年生全員で英検受験することで、英語に対するより一層の学習意欲を引き出す。 | （２）<br>ア・１年生２学期段階での平日・休日の自宅学習時間を確保させる。<br>平日 65 分・休日 95 分[平日 52 分・休日 88 分]<br>・国公立及び関西５大学への現役進学者数<br>60 人［ 73 人］<br>イ・第２学年の「総合的な探究の時間」で進路の理解が深まった。肯定的な評価 65%［64.4%］<br>ウ・実施後のアンケート「英語をより勉強したいという意欲の変化」(1.2 年平均) 肯定率 55%［55%］ | （２）<br>ア・自宅学習時間は平日 47 分、休日 78 分<br>家庭学習の大切さを繰り返し伝え、指導を行っているが、目標には届かなった。（△）<br>・国公立及び関西５大学への現役進学者数は 62 人。８クラスと１クラス減の中、健闘した。（○）<br>イ・肯定率は 71%。２年生では、フィールドワークで様々な仕事を理解することで、進路への興味関心が深まった。（◎）<br>ウ・英検全校受験（４年目）や授業での資格取得対策を行ってきた成果が出てきた。アンケートの肯定率 65%（◎） |
| ２　「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上 | （１）学習意欲の向上<br>ア　必要な学力の獲得と授業第一主義の確立、自学自習の充実<br>イ　論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力の育成 | （１）<br>ア・より分かりやすい授業展開と自宅学習の促進で学力向上を図る。<br>・自宅学習課題を適切に出し、自学自習を支援する。<br>イ・各教科の授業の中で、ディベートやプレゼンテーションだけでなく、自分の考えをまとめてノートに記述するなどの時間も確保して「考え表現する力」を育成する。<br>・特に探究の授業では、情報収集・討論・調査・まとめの活動を通してこれらの力の育成を図る。 | （１）<br>ア・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業は分かりやすい」肯定率 75%［ 72% ］<br>イ・学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」<br>肯定率 80%［ 85% ］<br>・第１学年の「総合的な探究の時間」における肯定的な評価 85%［87.5% ］ | （１）<br>ア・肯定率は 78%。教員全員で、授業改善に取り組んだ結果、「わかりやすい」という肯定率は上昇した。今後も、ICT のさらなる活用を促進し、生徒のニーズの変化にしっかり対応していくようにしたい。（○）<br>イ・肯定率は 88%。探究の授業だけでなく、多くの教科で意識してアウトプットの活動を取り入れており、生徒たちも活発に活動している。（○）<br>・肯定的な評価は 87%。本取組みも５年めを迎え、生徒の能力を着実に伸ばすことができた。（○） |
| | （２）授業力向上<br>ア　ICT を活用した効果的・効率的で興味を持てる授業の推進<br>イ　教育センター主催研修等の内容の全体への共有<br>ウ　教員用タブレット PC 導入による ICT の有効活用について研究 | （２）<br>ア・１人１台端末の導入に伴い、これまで以上に興味・関心を持てる授業を推進する。<br>イ・10 年経験者研修等の取組内容を校内で共有し、職員研修として企画実施することで全体の授業力向上につなげる。<br>ウ・教員用のタブレット PC や１人１台端末の効果的な活用方法に関する授業見学週間と研究協議を実施し、全体の授業力向上につなげる。 | （２）<br>ア・生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心が持てるようになった」肯定率 80%［ 82.0% ］<br>イ・授業力向上に向けた職員研修と協議を年に２回実施する<br>ウ・学校教育自己診断（教員）「コンピューターなどの情報機器が各教科の授業などで活用されている」肯定率 95%［ 97% ］ | （２）<br>ア・肯定率は 83%。教員による授業での取組みと、学習支援クラウドサービスを活用した授業内容の振り返り、課題の提示・提出などのサポートも役立っている。（○）<br>イ・10 年経験者の研究授業を複数回実施し、該当教科を中心にそのつど研究協議をして全体の授業力向上につなげた。（○）<br>ウ・肯定率は 89%。学習支援クラウドサービスや教員端末の活用などは進んでいるが、一部の教員の苦手意識はまだ払拭しきれていない。（△） |
| | （３）多面的・多角的な学習評価の工夫<br>新学習指導要領に対応した観点別評価の実施 | （３）<br>・第１学年で観点別評価を実施し検証の上、来年度以降につなげる。<br>・観点別評価の中でも、特に主体的な学びの評価方法については教科と全体での議論を継続して行う。 | （３）<br>・学校教育自己診断（教員）「本校では評価のあり方について話し合う機会がよくある」<br>肯定率 80%［ 78% ］ | （３）<br>・肯定率は 80%。新教育課程による観点別評価については導入２年めとなり、各教科での議論も深まってきた。次年度３年めは、公平公正な評価ができているかを検討していく。（○） |
| ３　心豊かでたくましい人間性の育成 | （１）他者理解と多様性の尊重<br>ア　多様な人権課題の提示<br>イ　各種行事への積極的な参加<br>ウ　国際交流等による国際的な視野の育成 | （１）<br>ア・人権教育推進委員会と学年・教科が連携し、生徒が主体的に学べるような様々な人権課題を提示する。<br>イ・学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。<br>ウ・コロナ禍で海外での語学研修の実施ができない状況なので代替プログラムを企画実施する。 | （１）<br>ア・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」<br>肯定率 80%［ 78% ］<br>イ・学校教育自己診断（生徒）「文化祭や体育大会は活発で楽しい」肯定率 75%［ 83% ］<br>ウ・代替プログラムの参加者アンケートの英語を勉強したいという意欲の向上　95%［ 100% ］ | （１）<br>ア・肯定率は 81%、昨年度より向上した。あらゆる教育活動において人権を大切にしており、HR 活動でも学ぶ機会を設けている。（○）<br>イ・肯定率は 91%。種目が増えた体育大会・服装自由化を導入した文化祭の実施により、学校行事に対する肯定感が上昇した。（◎）<br>ウ・今年度も海外研修に替えて希望者によるグローバル体験プログラムの実施を計画したが、参加希望者が少なく実施に至らず、アンケートも実施できなかった。新たに、韓国の高校との一日交流を実施したところ、両国の高校生はすぐに打ち解けあい、大いに盛り上がった。国際的な視野を広げるきっかけにはなったと思われる。（○） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | （２）情報リテラシー及び情報モラルの育成<br>ア　生徒が加害者にも被害者にもならないための対策の実施<br>イ　情報社会への対応 | （２）<br>ア・SNS 等の利活用について、教科「情報」の授業において、専門家を招聘して１年生に講義講演を行う。<br>イ・１人１台端末の導入に伴い、情報部主導で教職員の専門性を高めるための情報に関する研修を実施する。 | （２）<br>ア・１年生対象に専門家による講義講演を１回は実施する。<br>イ・学校教育自己診断（教員）「本校では生徒の個人情報保護の体制が確立している」<br>肯定率 80%［ 78% ］。 | （２）<br>ア・１年生全クラスの情報Ｉの授業で外部講師による「安全教室～高校生を取り巻く環境～」を実施して情報リテラシーの向上に努めた。（○）<br>イ・肯定率は 75%。年度当初に、生徒証紛失事案が生起したため、校長より全教員に対して、個人情報保護の再徹底を指示した。また、生徒名簿・成績資料などは、セキュリティモードでの利用を徹底している。（△） |
| | （３）安心できる学校生活の確保<br>ア 教育相談体制の充実<br>イ 基本的生活習慣の改善と定着 | （３）<br>ア・教育相談委員会が中心となり生徒情報の共有に努め、必要に応じてＳＣの指導助言や外部機関と連携することで、教育相談体制の一層の充実を図る。<br>イ・基本的な生活習慣の定着のため、これまでの遅刻指導を継続して実施する。 | （３）<br>ア・学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」<br>肯定率 70%［ 74% ］<br>イ・遅刻数を前年度より減少させる。<br>2475 件以下［ 2475 件 ］ | （３）<br>ア・肯定率は 75%。毎週１回の教育相談委員会で配慮を必要とする生徒を中心とした情報共有を行い、SC や外部機関に繋ぐなど学校としての組織的な対応はできている。（○）<br>イ・年間の遅刻総数は 2661 件と昨年より増加傾向にある。学校生活に適応できない生徒や体調的に朝から登校できない生徒が増加しているためであり、個別の指導も行っている。（△） |
| ４　地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり | （１）本校の教育活動の積極的な情報発信<br>ア　在校生の中学校訪問<br>イ　HP の充実による魅力の発信<br>ウ　定期的なメール配信による保護者との連携強化 | （１）<br>ア・在校生（1 年生）による中学校訪問を実施し、生徒の成長や生の声を提供して本校の魅力を発信する。<br>イ・HP の更新頻度を上げ、部活動等の最新の本校の情報を伝えることで魅力を発信する。<br>ウ・毎週末にメールマガジンを配信し、学校の様子を保護者にお知らせする。 | （１）<br>ア・生徒（1 年生）の出身中学校訪問を 90%以上<br>［ ― ］<br>イ・学校教育自己診断（保護者）「学校の HP は充実している」肯定率 65%［ 62% ］<br>ウ・学校教育自己診断（保護者）「学校のメールマガジンを活用している」肯定率 85%［ 88% ］ | （１）<br>ア・当初は生徒による中学校訪問を考えていたが、中学校との連携を一層深める観点から、教職員による中学校訪問に変更した。夏休み前後に教職員による地元中学校 27 校への学校訪問を実施した。（○）<br>イ・肯定率は 62%。昨年度以上に校長ブログやクラブ活動の様子を発信したが、目標に届かなかった。（△）<br>ウ・肯定率は 88%。毎週末の定期発信が定着しており、緊急時の連絡にも対応できている。（○） |
| | （２）地域との交流・連携の推進<br>ア　地域の学校や保育園などとの交流・連携の推進<br>イ　裏山を活用した環境教育の推進と地域交流 | （２）<br>ア・地域の学校や福祉施設等との連携事業や地域との防災行事などに取り組む。<br>・生徒のボランティア活動をサポートする。<br>イ・裏山等の刀根山の特徴を活かした地域連携を推進する。コロナの影響で実施困難な場合は、HP 等を利用して引き続き本校の魅力を発信する。 | （２）<br>ア・学校教育自己診断（教員）「本校では近隣の学校や地域などとの交流の機会がある」<br>肯定率 70%［ 68% ］。<br>イ・年間を通して、地元蛍池公民館の主催行事に協力する。生物エコ部の活動と連携させて、全校生徒にも裏山の恩恵を還元する。 | （２）<br>ア・肯定率は 76%。これまで築いてきた近隣地域との交流活動は継続できており、地域からも評価をされている。（◎）<br>イ・生物エコ部の協力のもと、蛍池公民館連携して「晩秋の里山を楽しむ」・「門松を作ろう」などの行事を、刀根山・蛍池・箕輪・桜井谷の４つの公民分館と連携して各地域の小学校で「ホタル観察会」を実施した。また、裏山を含む周辺地域に生育する「どんぐり」８種の標本を作製し、近隣のこども園や小学校に提供し、本校の魅力を発信することができた。（◎） |
| ５　働き方改革による校務の効率化 | （１）校務の効率化と教職員の健康増進<br>（２）各分掌、学年の年間業務の整理 | （１）<br>・全教職員で協力して顧問を分担することで、生徒の部活動を保障する。<br>・働き方改革の観点から、諸会議の運営方法を見直し、教職員の長時間勤務の縮減を図り、健康増進につなげる。<br>（２）<br>・学校経営委員会主導のもと、学校の進むべき方向を見定め、各分掌の役割を整理し業務を見直すことで校務の効率化につなげる。 | （１）<br>・部活動に係る活動方針を遵守し、年間における休養日を 105 日以上確保する。<br>・学校教育自己診断（教員）「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係ができている」<br>肯定率 80%［ 80% ］。<br>（２）<br>・学校経営委員会を定期的に開催して、学校の課題を検討し、効率化できる業務を全体に提案してできるところから着手する。 | （１）<br>・部活動の大阪モデルの概要が公表されたが、本校は単独でもチームを組むことができるクラブが多く、部活動方針を遵守しながら計画的活動している（○）<br>・肯定率は 74%。教員の多忙化のため、教員間のコミュケーションが不足してきており、経営会議等でも議論しているが、改善にはいたっていない。特に、気軽に相談できる時間がとれない状況が続いている（△）<br>（２）<br>・管理職、首席、指名教員で構成される「学校経営委員会」において、校内の諸課題と今後の展望等について議論を重ねている（○） |